NPO地球の緑を守る会/〒158-0097世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2—231号/Tel:03-5717-9358Fax:03-5717-9359/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成22年（2010）9月10日
No. 33
発行　高津啓洋

植樹ボランティア出発

8月25日、植樹ボランティアが、パラグアイに向け出発しました。柴沼邦彦隊長以下16名です。今回は、パンタナール地域のインディオの村の植樹と、バイアネグロ市、さらに南に位置するミングアス市に植樹の計画です。

みなさん、元気に成田を出発していきました。

元気に成田を出発

ボランティア隊予定
８月２５日成田出発
２６日アスンシオン着(パラグアイ)
２７日ローマプラタ見学
２８日レダ着
２９日カトルセマジョ植樹開始
３０日同村植樹
３１日バイアネグロ市に移動
９月１日バイアネグロ市で植樹
２日レダ到着
３日レダでエコツアー
４日飛行機でアスンシオンへ
５日ブラジルの鳥の公園、イグアスの滝
６日ミングアス市で植樹（５０校に各１００本を植える）・市長や学生と共に
７日アスンシオンで新聞社等を訪問
８日買い物をして、アスンシオン・出発
１０日帰国・成田着

（男性隊員の感想を掲載します。）

国が同じでも貧富の差だけでなく、扱いそのものが違うころに驚きました。マジョ村は病院はないし、電波が入らないので電話も出来ない、中学校も高校もない、どこか昔の村がタイムスリップした気持ちでした。

世界にはこういう村がたくさんあるとは知っていましたが実際に見ると、現実世界に引っ張られて、今までの自分の考えは甘い夢のような気さえしました。子供達はとても純粋で何の葛藤もなく、打ち解けることが出来ました。

植樹完了！

高校生の民族舞踊

子供たちと遊び、マジョ村での体験は一生忘れることが出来ない体験になりました。とても楽しかったと同時にとても考えさせられました。というのは、物がない、環境が悪いといって、何でもかんでも与えて、作ってしてあげていいのか、と思いました。

一緒に植樹活動をしながら、良い教育の中で育たないと今の日本や他の先進国見たいになってしまうのではないかと思います。物が溢れ、環境はほぼ完ぺきに近い日本だけれど、目の輝きもマジョ村の子供達と日本の子供達では明るさが違う。そういうことを考えると環境整備と同時に良い教育が欠かせないと思いました。

ミングアス市長と飯野元理事

世界遺産イグアスの滝

[お知らせ]環境セミナー3回講座シリーズ：予定9月19日（日）講座③。午後2時から4時/場所・大山街道館。資料代千円